



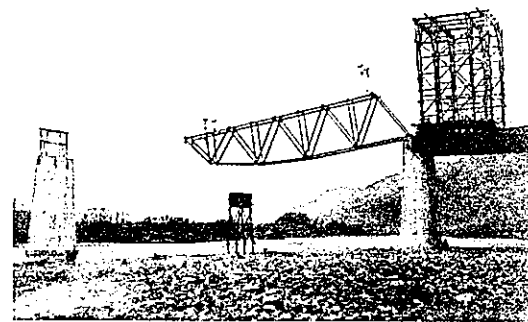
二軒茶屋の茶屋の廃屋

管蔵寺へと参拝に訪れる人々が多く利用したので管蔵街道ともよばれていた。南北の道もまたその周辺の集落の生活や盛衰と係わり続けて来たといえる。
(『三好町史、地域誌・民俗編』参照)

(四) 橋 梁

1 四国旅客鉄道株式会社(JR) 吉野川鉄橋

三好町を代表する橋である。大正十一年から昭和四年にかけて土讃北線の工事の一環として架設された。役場庁舎西側の開渠(かみち)工事の排土で島の田の中に長い堤防を築き、その先端から、鋼桁径間一八メートルを三六連、鋼桁径間六一メートル四連(総延長五七一メートル)の一大橋梁が架設された。架橋以来、昼間平野の田の緑に、橋桁トラスの防錆(ぼうさび)の紅が映えて、その偉容を誇ってきた。架橋とともに、この橋をひそかに歩いて渡る者が続出して、布屋の渡しがその役割を終えた。終戦後から昭和三〇年代のなかばまで、この橋を非公式に利用する者が多かった。



土讃線吉野川鉄橋の架設

し、明治四十四年五月実測に着手、翌四十五年一月起工、二年余を費やし、大正三年（一九一四）三月に竣工し、阿波池田駅が設置された。このとき川田駅を新設し、これまでの船戸駅を廃した。

(二) 土讃北線（讃岐財田～阿波池田）の開通

土讃線（琴平～土佐山田）は大正八年（一九一九）三月第一期線に加えられ、土讃北線（琴平～東豊永）と土讃南線（東豊永～土佐山田）に分けて、南北両方面から工事が進められることになった。北線は大正十二年五月、琴平～讃岐財田間が開通し、猪鼻隧道（延長三八四五メートル）の完成とともに、昭和四年（一九二九）四月、阿波池田駅まで開通した。この間、箸蔵駅開業は昭和四年四月二十八日で、現在の坪尻駅（つばじり）は同日、信号所として開設された。猪ノ鼻隧道は工費八〇〇万円を要した難工事であり、トンネル九か所建設の際の死者一〇名、負傷者は二〇〇〇名にのぼったという（『三好町史、地域誌・民俗編』参照）。

(三) 土讃線の全面開通

阿波池田から南下する鉄道は、昭和六年、三縄村中西まで延び、九月十九日三縄駅が開業した。土讃線の豊永までの延長分は昭和十年（一九三五）十一月二十八日、三縄～豊永間を開業し、土讃線が全線開通した。これより先、昭和九年三月三十一日に阿波池田～川之江間に省営バスが開通した。こうして、阿波池田駅は四国四県の連絡中継駅として脚光を浴びることとなった。